



時 栃 報 幼

題字 / 栃木県知事 福田富一氏

第 163 号

令和8年3月20日

一般社団法人 栃木県幼稚園連合会

〒320-0032 宇都宮市昭和1-3-10 栃木県庁舎西別館

☎028(622)2821 FAX 028(622)2816

●編集人 / 齋藤 君世 ●発行人 / 船田 弘和

■栃幼連ホームページ <https://www.youchien.or.jp>



令和七年度を振り返って

こども政策課長 齋藤 成宏



貴連合会会員の皆様には、日頃から幼児教育の振興に御尽力いただきとともに、本県のこども・子育て支援行政の推進に御理解・御協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

こども政策課長として令和七年度を振り返りますと、国や県のこども・子育て支援施策等に新たな動きがありました。

まず、国においては、「こども未来戦略」の加速化プランに基づき、「すべてのこども・子育て世帯への支援」を一つの柱として、保育士・幼稚園教諭等の処遇改善や幼児教育・保育の質の向上のための一歳児配置改善加算の創設など、保育士・幼稚園教諭等の負担軽減とこどもを安心して預けられる良質な保育環境の整備に向けた取組が実施されました。特に「こども誰でも通園制度」については、子ども・子育て支援法に基づく「地域子ども・子育て支援事業」として制度化され、実施自治体の増加を図った上で、令和八年度からの本格実施に備えてきたところです。

一方、県では、「栃木県こどもまんなか推進プラン」の初年度として「こどもまんなか社会」を実現する

べく、喫緊の課題である少子化の克服に向け新たに三名の外部専門家を選任し、その専門的知見に基づく助言や提案等をいただきながら各種施策の充実・強化を図ったほか、子育ては大変というイメージを払拭し、県民が子育てをより前向きに感じられる気運を醸成するために「喜びのある子育て」推進キャンペーンを展開するなど、全てのこども・若者の健やかな成長と将来にわたる幸せを支援する取組や、希望に応じた結婚・妊娠・出産、喜びのある子育てを支援する取組を進めて参りました。

また、年明け一月には、教育・保育人材の安定的確保の推進や現職教諭等のモチベーションの向上に繋げるため、「保育の魅力発信フォーラム」を開催いたしました。このフォーラムでは、現役の保育士や幼稚園教諭など多くの皆様に参加いただき、貴重な御意見・御感想をいただくこともできました。今回のイベントの経験を活かし、貴連合会をはじめとする関係機関の皆様と連携しながら更なる教育・保育人材の確保に取り組んで参ります。

今後とも、次の時代を担うこどもたちが、夢や希望を持って健やかに成長できるよう、幼児教育の振興や子育て環境の更なる充実に努めて参りますので、貴連合会及び会員の皆様には、一層の御理解と御協力をいただき、よろしくお願いいたします。



令和七年度を振り返って

栃幼連理事長 船田 弘和



冬の祭典である冬季五輪の感動と余韻の中、令和七年度が終わろうとしております。今年度を振り返れば、皆様に支えられた様々な出来事が蘇り報恩感謝の思いに尽きる一年となりました。

少子化が加速し私たちの経営環境も激変しております。かつてあった人口増の時代は、努力が報われる時代でした。今はどちらかというと、制度に振り回され、社会からは多様性を求められる時代になりました。かつて高い理念を掲げて設置開園された各幼稚園の、志を守ること。子どもたちに良き教育の環境を用意すること。環境と関わり合いながら楽

しくイキイキと過ごせるよう、保育に努めている先生方を守り協同して高みを目指すこと。地域の子育ちの拠点としての役割を担っていくことなどの重要性と難しさを、痛感しております。

栃木県幼稚園連合会では、加盟園の設置者・園長だけでなく教職員と子どもたちのために、理事長の力不足を補って、理事や、委員会の先生方が、時間と思考と労力を結集して、今年度の各種事業を進めいただきましたことに感謝申し上げます。

子どもの団体が使命を果たすために、栃木県知事をはじめとする行政機関や、自民党栃木県連議員で構成される「幼児教育を支援する議員の会」の皆様のご理解と、栃木県幼児教育センター、栃木県私立幼稚園振興財団、栃木県私立幼稚園振興連盟、栃木県幼稚園PTA連合会の皆様に重ねて感謝申し上げます。



研修会だより

設置者・園長研修会

期日 令和八年一月二十三日(金)

会場 ベルヴィ宇都宮

(ヴァーグデリス)

参加 八十六名

研修Ⅰ

内容 「保育士等の処遇改善(国経済対策に係る公定価格改正)」

「こども性暴力防止法」

講師 栃木県保健福祉部

こども政策課

主任 越場 康介氏

主査 檜山 泰知氏

ポイント

運営に関わる制度改正および新たな法制度について行政

説明が行われた。はじめに、保育士等の処遇改善として、国の経済対策により公定価格の人員費部分が令和七年度に五・



越場 康介氏

三%引き上げられたことが説明された。これは令和五年度、令和六年度に続く三年連続の高水準の改定である。また、令和七年度限りの措置として「運営継続支援臨時加算」が創設され、令和八年一月時点の在籍児童数をもとに、児童一人当たりの基本単価へ加算される仕組みが示された。

あわせて、人事院勧告に伴う人員費改定分は補正予算で措置され、年

度当初に遡って支払われるため、法定福利費の事業者負担分を控除した上で、速やかに全額を職員へ支払う必要があるとされた。調査では、改定分が未払いの施設が約三割存在することが報告され、適切な支払いと、翌年度以降の給与ベースアップへの反映が求められた。

さらに、経営情報の見える化として求められている経営情報等報告システム「ここdeサーチ」への報告が未実施の場合、翌年度の基本単価が五%減額される可能性があることが示され、早期の対応が呼びかけられた。処遇改善等加算については、令和八年四月以降、研修要件の経過措置が終了し、中核・専門・若手リーダーごとに定められた研修時間を満たす必要があるため、計画的な研修受講が重要とされた。

後半では、令和八年十二月二十五日施行予定のこども性暴力防止法について説明が行われた。同法



檜山 泰知氏

では、教育・保育に従事する職員について、性犯罪前科の有無を確認する制度が導入され、新規採用時や配置転換時の確認に加え、既存職員に対しても段階的な確認が求められる。また、確認情報は要配慮個人情報として厳格な管理が必要であり、不適切な取扱いは罰則や認可等への影響が生じ得ることから、制度施行に向けた十分な準備が求められている。

研修Ⅱ

内容 「幼児教育に関する最新情報」

講師 栃木県幼児教育センター

センター長 前原 由紀氏

ヒモト

これからの子どもたちが生きていく時代は厳しい。どんなにデジタル社会になろうが、最後は人の判断力が大切で、



前原 由紀氏

どういう人間に育てていったらよいか改めて考える時代になった。厳しい変化が止まることのない、これが正解というものもなかなか無い状況で文部科学省が育みたいことは「自らの人生をかし取りする力を身に付けること」「持続可能な社会の創り手となること」「豊かな可能性を開花できること」である。

近々教育要領の改訂が行われるが、「多様な子どもたちの深い学びを確かなものに」がキーワードになってくる。ここ二十年くらいで色々な国の子どもたちが増えた。また、今までの特別支援教育だけではなく、能力を持て余しているようなお子さんにも焦点が当たってくる。画一的ではなく、多様性を包摂しながら、自らの人生をかし取りできる、民主的で持続可能な社会の創り手がみんな育てられている。文部科学省とこども家庭庁で一緒に作業をしており、令和八年のうちには、具体的な内容が示されるかもしれない。具体的にはどうするのかという

と、まず「好き」を育み「得意」を伸ばす、そして、当事者意識を持って自分の意見を形成し対話と合意ができる、そんな子どもを育てることが大切で、大人しく教室で座っているだけというのは一番危険である。特に幼児教育では、言葉を用いて思考を深めていく指導と、他者と関わり協働する力を育てていく指導が求められる。

これまでの乳幼児を取り巻く現代社会の課題として、一部の保護者のニーズを優先するなどして乳幼児の発達にふさわしくない保育が行われている、との指摘があった。幼児教育では環境を通して学ぶことが何より重要であり、子どもたちが自分で選んで自分で決めて活動すること、で、「やってみたい」「もう一度やる！」という意欲が生まれる。これ

がまさに「学びに向かう力」で、子どもが自ら考える隙間を作っておけることが大切である。小学校も変わってきているので、幼児教育でぜひ体験を通じた学びができるよう環境を構成していただきたい。

今までは方法を教えていたが、環境を構成する、つまり心が動く状況を作ると、子どもが自分で考えたり選んだりして試行錯誤を繰り返す。そして、こうすればうまくいくということを体験を通して学んでいく。そこに自己有用感が生まれ、知識及び技能もより強いものになる。

次年度幼児教育センターでは、大豆生田先生のお声がけにより、五年目研修と主任研修で公開保育の質を

上げましようということになった。「子ども主体の保育にしたい」、「先生たちを元気にしたい」園は、ぜひ手を挙げてほしい。また、幼児期の大切な学びが分かる動画シリーズも活用願いたい。

研修Ⅲ

内容

「イチロー、田中将大との出会いを通じて子どもの能力、可能性の引き出し方」

講師

ベースボールスピリッツ

代表 奥村 幸治氏

メモ

講師は、日本のプロ野球界で通算四年にわたって打撃投手を務め、イチローや田中将大といったスター選手、またバレンタインや星野仙一両監督ら様々な野球人と身近に接した。現在それらの経験を生かし、子どもの能力や可能性の引き出し方、野球を通じて子ども達の健全な成長や人材育成をテーマに講演活動を行っている。



イチローや田中、野茂選手など日本のみならずアメリカでも活躍するスター選手に共通するのは、ひとつには自らの実力を最大限に発揮するためにもっとも必要な「体力」を持っていること。そして技術の習得を積み重ねるための「努力」。特に目の前に小さな目標を掲げ、その達成を毎日続けること。少し頑張れば手に届くような実現可能な目標を掲げる。

もうひとつは、野球を通じて社会に貢献することや、社会寄付、ボラ

ンティア活動などの惜しみないファンサービスである。するとファンが増え応援が増え、強い心の支えとなり良い結果につながる。また絶え間ない向上心、謙虚な気持ち。こうした態度も運を引き寄せる大きな要素である。「運」を味方につけた人間は強い。

ゲーム世代、Aーの普及する環境にある現在の子ども達にとって、コミュニケーション力の欠如や思考力の低下などさまざまな悩みがある。それでも「努力」「目標」「運」を手に入れることは人間にしかできない。目標を持ち努力する素晴らしさを大人が伝えなければならぬ。目標に向かう努力とは、いうまでもなく小さな目標達成を毎日続けることである。考えることが苦手な子どもには考える材料を与える。「いいキャッチボールができるマニュアルを作ってみよう」マニュアル作成はみんなで考える材料となる。「ほめて伸ばしたい」なら「ほめ合戦」をしてほめる材料を与える。どんな子どもにも必ずほめるところがある。互いに認め合うことも大切。子どもには誰にも伸びしろがある。可能性がある。それを見つけ引き出す手助けをすることが、我々大人の役割である。





資質向上研修④

期日 令和七年十二月四日(木)

会場 コンセール(大ホール)

参加 四十九名

内容 「リーダーの重要性」

～マネジメント対象～

講師

関東学院大学 教育学部

准教授 三谷 大紀氏

メモ

子どもを主体として理解し支える保育を実現するために



は、まず子どもの小さな発見や興味関心、困難さに目を向け、その子ならではの学ぼうとする姿を見取り、その意味を共に考えることが重要である。

保育者は、子どもを「教える対象」や「操作する対象」として捉えるのではなく、「自ら学ぼうとする主体」として受け止める」視点が求められる。

そのうえで、保育の質を高めるためには保育者間の語り合い、すなわち「対話」が欠かせない。同質性を前提とした会話ではなく、互いの異質な視点を尊重し受け入れる対話の中で新たな発見や気づきが生まれる。具体的には、写真やビデオを用いたフォトカンファレンスや園内公開保育、保育記録の共有などを通して、子どもの姿やその意味を多角に捉え、語り合う機会を日常的に設けることが有効である。

対話の場では、「どう関わるべきか」という正解指向ではなく、「何が起きているか」を中心に話題を据え、保育者一人ひとりの見方や考えを開き合うことで、それぞれの理解が深まり、子どもに寄り添う柔らかい温かいまなざしを育むことができ

加えて、保育者が互いにリスベクトし合い安心して語り合える園内風土を形成することは、子どもの関係性にも影響を与え、子どもと保護者、地域との連携を豊かにする。

また、日々の短時間の振り返りや少人数での話し合いも研修機能を持ち、継続することで職員同士の学び合いや支え合いを促進する。

こうして生まれる「共につくる保育」は、子どもの成長や学びを深めるだけでなく、保育者自身の専門性向上や学びを深め、子どもをまんなかに据えた質の高い幼児教育の実現に貢献する。



資質向上研修⑤

期日 令和八年一月二十二日(木)

会場 コンセール(アイリスホール)

参加 五十二名

内容 「幼保小連携」

～架け橋にかけよう～」

講師

國學院大学

教授 吉永 安里氏

メモ

これからの子どもたちは、SocialのOと呼ばれる超スマート社会を生きていく存在である。人工知能やIoT、ビッグデータなどの



先端技術が進展し、社会が大きく変化する時代において求められるのは、知識の量だけでなく、自ら考え選択し、周囲に働きかけていく力、すなわち「エージェンシー」である。その基盤は、幼児期から小学校低学年にかけての「架け橋期」に育まれる。この時期は、生涯にわたる学びと生活の土台を形づくる大切な二年間である。幼児教育と小学校教育は方法や環境こそ異なるが子どもの育ちは連続している。だからこそ段差をつくらず、育ちと学びを滑らかにつなぐ視点が大切である。

幼児期の「遊び」は、子どもがやってみたいと心を動かし、試し、関わり合いながら学びを深める主体的な営みである。そこには資質・能力の芽が確かに育っている。小学校では、その育ちを大切に受け止め、教科の

学びへとつなげていくことが求められる。

幼保小連携とは、行事や情報交換にとどまらず、保育者と教師が、子どもの姿を中心に捉え、学びを共に創っていく営みである。子どもが安心して自分らしさを発揮し、「学ぶことは楽しい」と感じながら成長できるよう、私たちは架け橋をかけた続けていきたいと考える。未来を形づくるのは子ども自身である。その歩みを切れ目なく支えることこそ、今を生きる私たち大人の大切な責任である。



教育実習の在り方研究部会

期日 令和八年二月六日(金)

会場 コンセール(大ホール)

参加 三十七名

内容 「教育実習の受け入れについて考える」

講師

宇都宮共和国

元教授 高柳 恭子氏

本研修は教育実習生を受け入れる時の園側の体制や取り

メモ



組み、実習生の気持ち
 ちを考える機会と
 なった。
 教育実習は、学生
 にとつての学びの場
 であると同時に、園の職員にとつて
 も自らの保育を見つめ直す貴重な機
 会である。「なぜこの援助をしてい
 るのか」「子どもにとつてより良い
 関わりとは何か」など、実習生の問
 いかけは、私たち自身の専門性を改
 めて考えるきっかけとなり、保育の
 質の向上へと繋がるものである。実
 習は単なる体験ではなく、将来どの
 ような保育者になりたいかを考える
 大切な時間でもある。受け入れる園
 側は、学生一人ひとりの思いに寄り
 添いながら、キャリア形成を支える
 役割を担っているという意識をもち
 関わっていくことが大切だという。
 講座を通し、保育の質を向上させ
 るためには、教育実習の在り方を見
 つめ直し、互いに学び合い、高め合
 う環境づくりが不可欠だということ
 が明確になった。



第2回 特別復興支援プロジェクト 報告

2025年11月19日、能登半島地震（2024年1月1日）および能登半島豪雨（2024年9月21日）で被災した輪島市和光幼稚園にて、第2回特別復興支援プロジェクトを実施いたしました。昨年度に続き、年長児とともにケーキ作り、全園児および先生方へのいちご贈呈に加え、今年度は新沢としひこ氏のサイン入り楽譜贈呈、年中・年少児はカップケーキのデコレーションを行いました。子どもたちと先生方の笑顔に触れ、今年も実施できた喜びを強く感じました。

また、輪島市内の幼稚園、保育園、認定こども園計6園へ各5万円の支援金を贈呈しました。輪島市役所にて贈呈式を行った際、市役所の方に当時の状況を伺うことができました。被災下で公務に尽くされた皆さまのご苦勞に深く敬意を抱いております。現在、市内の瓦礫撤去や園の修繕は進み復興は着実ですが、人口減少や修繕費等の課題が残るとのことでした。来年度も「笑顔」を届ける活動を継続できればと考えております。その折にはご協力を賜れますと幸いです。

最後に、参加・協力くださった先生方、関係各所に厚く御礼申し上げます。

リーダー 栗原 賢臣





令和8年度私立幼稚園関連予算案

(単位：千円)

事業名	令和7年度 予算額	令和8年度 予算額(案)	概要
1 幼稚園運営費補助金	618,731*	464,748	学校法人が設置する幼稚園の運営費に対する助成 (1)園児1人当たり 218,000円(R7 212,900円) ※内、県単上乗せ11,500円(R7 10,000円) 3~5歳 1,783人 満3歳 257人 (2)一種免許状加算分 247千円 (3)処遇改善加算分 19,780千円
2 地域子育て推進事業費補助金	96,700	86,880	私立幼稚園及び認定こども園が実施する子育て支援事業に対する助成 (1)子育てランド事業 19,620千円 (2)わんぱく保育推進事業 67,260千円
3 栃木県私立幼稚園振興財団補助金	267,646	267,939	私立幼稚園及び幼保連携型認定こども園の教職員の退職金給付事業に要する経費に対する助成 ・補助率 教職員標準給与額の30/1000
4 特別支援教育費補助金	546,840	597,016	特別支援を要する園児が就園する私立幼稚園及び認定こども園に対し、特別支援教育に必要な経費の一部を助成 学法 784千円/人(国庫) 学法以外 392千円/人(県単)
5 授業目的公衆送信補償金助成費	181	130	授業目的公衆送信補償金制度の活用に対する助成
6 私立学校教職員共済補助金	186,418	197,059	長期掛金について、標準給与額の8/1000を補助
7 栃木県私学団体補助金	7,000	7,000	栃幼連が行う研修事業に要する経費に対する助成 ・補助率 定額 (1/2以内)
8 幼稚園緊急環境整備事業費	46,965	52,821	(1)学校法人立幼稚園及び認定こども園が行う遊具等環境整備に対する助成 ・補助率 認定こども園 1/2、左記以外幼稚園 1/3 (2)認定こども園等における研修支援 ・補助率 1/2 (3)認定こども園等の業務体制への支援 ・補助率 1/2 (4)園務改善のためのICT化支援 ・補助率 1/2
9 子どものための教育・保育給付費	12,355,156	13,627,740	施設型給付等に係る市町への負担金及び補助金 ・県負担割合 全国統一費用部分 1/4 (1号園児は地方単独費用部分1/2あり)
10 子育てのための施設等利用給付費	332,779	294,537	私立幼稚園(私学助成)等の利用料無償化に係る市町への負担金
11 一時預かり事業	255,657	246,755	一時預かり事業を実施する市町に対する助成 ・補助率 1/3
12 第2子以降保育料等免除事業費	1,441,957	1,428,640	認定こども園等に通う児童のうち、第2子以降の3歳未満児の保育料及び第3子以降の3~5歳児の副食費の免除事業を行う市町に対する助成 ・補助率 1/2
13 乳児等のための支援給付費	-	35,721 (新規)	乳児等のための支援給付に係る市町への負担金 ・補助率 1/8
計	16,145,765	17,306,986	

令和8年度予算案の内容について

新年度予算における大きな成果は、長年の懸案であった私学助成園への県単補助が、削減前の11,500円へと回復されたことです。2000年代前半「聖域なき構造改革」から始まった補助金削減の大きな流れにあって、栃幼連はPTAと連携し関係部局や自民党県連との粘り強い折衝を積み重ねてまいりました。その努力が実を結び、本年度には補助額が1万円に、新年度には、ついに従前の水準に回復されるに至りました。執行部による適切な舵取りはもとより、会員の皆様のご理解・ご協力があったからこそ実現した成果です。しかしながら、依然として我々私学を取り巻く環境は厳しく、引き続きこの実情を広く訴え、さらなる補助の増額を目指してまいります。

近年は市町単位での振興活動が中心となりつつありますが、連合会として一丸となって取り組むことが大きな影響力を持ちます。各理事長・園長先生におかれましては、今後の振興活動への一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。 振興委員長 富川 将





幼児教育センター事業への御協力ありがとうございました。年次研修最終日の様子とともに、振り返りを紹介します。

新規採用幼稚園教諭等研修

昨年十二月二十四日に、全日程が終了しました。閉講式の新採者は晴れやかさと自信を感じさせる表情でした。

最終日となる第九日は、講話・演習「指導計画の作成」明日の保育を考える」から、指導助言者の指導の下、日案を作成しました。その後、講話「発達の特性を踏まえる」において、改めてこれまでの保育を振り返り、幼児期の発達の特性について整理し、今後の保育に生かす見通しをもちました。

振り返りでは、「四月の自分と比べると保育者としてだいぶ成長したと感じた。これからも頑張っていきたい。」「他園の先生方と話をすることで、様々な考え方や意見を聞くことができた。保育に對する不安もたくさん話すことができ、とても有意義な機会だった。」「他者の意見を聞くことが自分自身の学びにつながる



ことを実感することができたので、職場でも「コミュニケーション」を大切に日々保育をしていきたい。」

「どんなに忙しい時も『子どものため』を第一に考え、笑顔と肯定的な声かけを心がけていきたい。」

「日々の学び続け、責任感をもって保育に向き合っていきたい。」などの感想が寄せられました。

一年間を通して、先生方が教諭・保育教諭としての役割と責任を自覚し、前向きに学び続ける姿に、大きな成長と頼もしさを感じました。

子どもたちが毎日楽しくわくわく、新採者も楽しくわくわく過ごせるよう心から応援しています。

幼稚園等教職五年目研修

一月二十一日に、五年目研修の全日程が終了しました。

最終日は、二つの講話・演習「指導計画のつながり」「支え合う教職員集団を目指して」を行いました。

今までの経験等も交え、思いや考えを受講者同士で共有し合うことで園において自身が担うべき役割や今後の展望について決意を新たにしています。

振り返りでは、



「自分の日々の保育を見直す良い機会となった。後輩もたくさんできたので、五年目という立場を自覚し、明日からの保育に生かしていきたい。」

「日々の保育計画を見直し、子どもの姿から再構成する時間を今後作っていきたい。また、園全体の職員を尊重し、チーム保育で子どもの笑顔のために努めていきたい。」

「五年目以降も、初心を忘れず、どのような立場であっても広い視野を持ち、子どもとの関わりを深めながら、よりよい園をチームで作り上げていきたい。」などの声がありました。

先生方のさらなる御活躍を期待しております。

中堅幼稚園教諭等資質向上研修

一月七日に、最終日を実施しました。今後の栃木県の幼児教育をミドルリーダーとして支えていく五十五名が全日程を修了しました。

最終日は、各自が取り組んだ課題研究の報告・協議を行い、研究テーマについて考えを深めていました。その後、公認心理師・臨床心理士の土沢薫先生より「教職員のメンタルヘルス」の御講話をいただきました。

最後に、大豆生田啓友幼児教育センター顧問が「ミドルリーダーに求められること」について講話を行いました。



マネジメントを軸にミドルリーダーの役割を深く考えていく研修としたことで、教育活動や園運営の円滑かつ効果的な取組を組織的に推進していくための資質・能力の向上を図ることができました。

栃木県の幼児教育を支える存在として、先生方の益々の御活躍を期待しております。

令和七年度文部科学省中央協議会

今年度は十一月四日及び五日に開催されました。現地参集オンラインを含め、栃木県からは十四名の先生方が参加くださいました。現地参集で参加くださった先生方を紹介します。

- 認定しらゆりこども園
- 萌丘東幼稚園 伊藤 美帆 先生
- 那珂川町立わかあゆ認定こども園 市村 美晴 先生
- 岡安 柚佳 先生

★次年度の研修申込みについて

「幼稚園等教職五年目研修」と「中堅幼稚園教諭等資質向上研修」は、三月十日付送付の受講者の照会文書より報告してください。

それ以外の研修は、「幼児教育センター研修案内」のQRコードから申し込んでください。

★「受講の記録」について

三月十七日に発送しました。御確認ください。

教育課程研究集会
研修当日あるいは最終日に配布できなかった研修



こども政策課だより

各種提出書類について

●運営費補助金(全体分)

補助金実績報告書の提出期限は、二〇二六年四月中旬(予定)です。公認会計士等の監査日程の都合等により、提出期限までに二〇二五年度決算が確定しない場合であっても、仮決算の段階で県に実績報告書を提出し、決算確定後、再度提出されるようお願いします。

●運営費補助金及び教材費等補助金特別補助(わんぱく保育推進事業・子育てファンド事業)

事業実施報告書の提出期限は、わんぱく保育推進事業及び子育てファンド事業ともに二〇二六年四月上旬(予定)です。

●二〇二五年度決算書及び二〇二六年度予算書の提出について

二〇二五年度決算書及び二〇二六年度予算書の提出期限は、二〇二六年六月末日です。四月上旬に、決算書等(標準様式)の電子データを別途メールでお送りします。

●資産総額の変更登記済届

二〇二五年度決算に伴う資産総額の変更登記は、寄附行為で定める期

限(五月末日又は六月末日)までに
行い、期限後一ヶ月以内に登記済届
を提出してください。

●認定こども園運営状況報告書

認定こども園法第三十条等の規定
に基づき作成をお願いします。
提出期限は二〇二六年六月下旬(予
定)です。(園児数調査のみ五月上旬
(予定)です。)

※各種提出書類の詳細については、別途
送付する通知文を参照の上、期限内
の提出をお願いします。

園舎の耐震化の促進について

東日本大震災以降、園舎の耐震診
断の実施・耐震化がより一層求めら
れています。

本県の私立幼稚園(幼稚園型認定
こども園を除く)の耐震化率は、令
和六年四月一日現在で七十四・五%と
全国平均九十二・二%と比べ、低い数
値となっています。

令和八年度以降も引き続き、国庫
補助制度の活用による耐震化を促進
したいと考えておりますので、耐震
化(建替・補強等)を予定する場合は、
早めに御相談くださいますようお願い
いたします。

今後とも、園舎の耐震化に取り組
んでいただき、安全・安心な教育環
境の整備をお願いします。

令和八年四月～六月までの事業予定

4月3日	①新規採用幼稚園教諭等研修(集合研修)
4月15日	新採教諭研修(宿泊研修)代替研修
5月13日	※幼稚園等教職5年目研修
5月19日	0・1・2歳児研修
5月20日	資質向上研修(評価)
5月21日	栃幼連定時総会(令和七年度決算総会)
5月22日	※ 架け橋期コーディネーター育成研修
5月26日	②新採研 公開保育(宇大附属幼稚園)
5月28日	保育テクニカル講座
6月3日	※ 中堅幼稚園教諭等資質向上研修
6月4日	保育セオリー講座
6月13日	公開保育研究会(宇大附属幼稚園)
6月15日	※ 指導助言者説明会
6月16日	※ 教育課程研究会
6月18日	全私幼退団協議会総会 栃木県
6月19日	※ 架け橋期コーディネーター育成研修
6月25日	※ 幼児期の特別支援教育研修
6月26日	②新採研 公開保育(宇大附属幼稚園)
	※ は幼児教育センター事業

令和八年度 栃幼連 定時総会

(令和七年度 決算総会)
令和八年五月三十一日(木)
会場：コンセール

甲事

- 栃木市 認定こども園國學院大學栃木二杉幼稚園
前園長 栗原 和子 先生
令和七年十二月二十日 逝去
 - 真岡市 認定こども園高ノ台幼稚園
副園長 吉羽 久子 先生
令和八年一月十六日 逝去
 - 那須塩原市 すぎのこ幼稚園認定こども園
前園長 戸田 チヨ 先生
令和八年二月二十八日 逝去
- 謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

慶事

● 栃木地区 令和八年二月十四日
認定こども園おみや幼児教育センター
創立六十周年記念式典

編集後記

認定こども園に移行して、
二年が経った。市の担当者の
方々に丁寧に教えていただき
ながら、様々な書類に対応す
ることができた。私学助成の
時期が長かったため、書類の
作成によりやく慣れてきたところ
である。移行して最も違いを感じ
たのは、二号、三号と一号の入園
が確定する時期の違いであった。
ようやく、今年も令和八年度の二
号・三号の書類関係も先が見通せ
るようになってきたところであ
る。お預かりする子どもたちに認
定の違いはあるが、皆仲良く過ご
している様子を見ると、何だか
ほっとする。また、今まで園にい
なかつた〇・一歳児の成長にも喜
びを感じるこの頃である。
昨年の九月下旬に迷い猫を保護
し、自宅で飼うことになった。毎
日そのかわいらしさに癒やされて
いる。大切な家族として、これか
ら長く一緒にいたいと思う。
(認定こども園佐野みのり幼稚園
高瀬 恵)